



公益社団法人

日本語教育学会

2018年度日本語教育学会春季大会

2018年5月26日(土)・5月27日(日)
東京外国語大学(東京都府中市)

日本語教員養成の新しい役割と可能性

公益社団法人日本語教育学会は、その使命として「人をつなぎ、社会をつくる」を掲げ、昨年5月の春季大会で学会像・全体目標・事業方針・組織方針・財政方針を2015-2019年度事業計画と共に、学会の理念体系として発表しました。

今回の大会では、2015-2019年度事業計画における社会的研究課題の一つ「日本語人材・複言語人材育成のための日本語教師養成・研修の理念と枠組みの再構築」を念頭に置き、「日本語教員養成の新しい役割と可能性」をテーマに据えました。このテーマを踏まえ、一般公開プログラムでは、「日本語指導が必要な子どもたちを取り巻く学習環境を手がかりとして」をサブテーマとし、国内外で多様化し続ける学習環境に対応できる日本語教員養成のあり方について考えることにしました。

特に、喫緊の課題として注目されている日本語指導が必要な子どもたちを取り巻く学習環境を切り口として、日本語教育の視点を持った人材の育成を担う日本語教員養成課程の今後の役割や可能性について、みなさまと議論していきたいと思っております。当日共有される実践・研究事例、問題提起をきっかけに、あらためて日本語教育の日本国内及び海外における重要性とその社会的役割を問い直す機会となれば幸いです。

公益社団法人日本語教育学会会長 石井恵理子

目 次

開催のご挨拶	1
開催概要／目次	2
大会日程	3
一般公開プログラム	4
発表一覧：パネルセッション	5
発表一覧：口頭発表	6
発表一覧：ポスター発表	8
同時開催イベント	11
キャンパス案内図	15
会場配置図	16
会場への交通案内	17

◆大会参加にあたり、手話通訳者等の費用助成を希望する場合は、手話通訳者等利用費用助成に関する規程および同要領をご確認いただきまして、4月10日（火）までに申請をお願いいたします。その他、なんらかの配慮を要する場合は、同日までに下記大会事務局までご相談ください。座席の確保など可能な範囲で対応いたします。また、期日までにご相談がない場合は対応できかねます。

- ◆主催：公益社団法人日本語教育学会
- ◆大会参加費：【事前登録※お支払い時に手数料がかかります】
 - 会員 3,500 円
 - 会員（学生証をお持ちの方）2,000 円
 - 会員でない方 5,000 円
 - 【当日受付】一律 5,000 円
- ◆懇親会費：【事前登録※お支払い時に手数料がかかります】
 - 一律 3,000 円
- ◆事前登録期間：2018年4月16日（月）～5月15日（火）
- ◆問合先：03-3262-4291/E-mail:taikai-office@nkg.or.jp(前日まで)
090-1999-3315(当日のみ)

パネルディスカッション

日本語教員養成の新しい役割と可能性

—日本語指導が必要な子どもたちを取り巻く学習環境を手がかりとして—

日本語教員養成課程は実際に日本語教師となる学生ばかりではなく、日本語教育の知識を活かした様々な分野で活躍する人材を輩出し、多文化共生社会の構築に貢献しています。本プログラムでは、そのような人材を「日本語教育の視点を持った人材」と捉えたいと思います。昨今喫緊の社会的課題として注目されている日本語指導が必要な子どもたちを取り巻く学校内外の学習環境を切り口として、その支援についての実践・研究に取り組まれている方々をパネリストに迎え、日本語教育の視点を持った人材の育成を担う日本語教員養成課程の今後の役割や可能性について議論します。

パネリスト：

「子どもの日本語教育分野に求められるアントレプレナーシップとは」

田中宝紀氏（NPO 法人青少年自立援助センター
定住外国人子弟支援事業部責任者）

「外国人の子どもの不就学「ゼロ」をめざして」

小島祥美氏（愛知淑徳大学准教授）

「多文化共生を担う人材育成と外国籍市民への日本語支援」

宮崎幸江氏（上智大学短期大学部教授）

「多様な子どもたちを豊かに育む社会の創成に向けて」

石井恵理子氏（東京女子大学教授）

進 行：

阿部新（公益社団法人日本語教育学会大会委員・
東京外国語大学）

本プログラムは、一般社団法人尚友倶楽部の助成を受けたものです。

パネルセッション

第1部 [14:00 ~ 15:30 (90分)]

第1会場	第2会場	第3会場
研究講義棟 1階 101 司会：ポイクマン総子 (東京大学)	研究講義棟 1階 115 司会：古川嘉子 (国際交流基金)	研究講義棟 2階 227 司会：西谷まり (一橋大学)
① 日本語教育におけるこれからの 評価研究を考える 李在鎬 (早稲田大学) 伊東祐郎 (東京外国語大学) 島田めぐみ (日本大学) 近藤ブラウン妃美 (米国・ハワイ大 学)	② 人的・物的リソースを活用した 大学間連携ネットワークの形成 —教育関係共同利用拠点事業のさら なる活用に向けて— 工藤嘉名子 (東京外国語大学) 伊藤秀明 (筑波大学) 藤平愛美 (大阪大学) 藤村知子 (東京外国語大学)	③ 日本語学校の質的保証—混乱か らの脱却— 佐々木倫子 (桜美林大学名誉教授) 江副隆秀 (新宿日本語学校) 加藤早苗 (インターカルト日本語学 校) 山本弘子 (カイ日本語スクール)

第2部 [15:45 ~ 17:15 (90分)]

第1会場	第2会場	第3会場
研究講義棟 1階 101 司会：浜田麻里 (京都教育大学)	研究講義棟 1階 115 司会：由井紀久子 (京都外国語大学)	研究講義棟 2階 227 司会：河野俊之 (横浜国立大学)
④ DLAのダイナミック・アセスメン トとしての可能性—アセスを通じ て教師力を伸ばす— 菅長理恵 (東京外国語大学) 高橋登 (大阪教育大学) 真嶋潤子 (大阪大学) 櫻井千穂 (同志社大学) 小山幾子 (豊田市教育委員会)	⑤ 食べ物を通じた日本語教育—体 験を語る評価、オノマトペ、感覚表 現— ポリー・ザトラウスキー (米国・ミ ネソタ大学) 福留奈美 (早稲田大学大学院生) 水藤新子 (中央学院大学) 蓮沼昭子 (創価大学)	⑥ 「生活者としての外国人」への 言語教育に携わる人材とはどう あるべきか—その人材像・育成方 法について再考する— 足立祐子 (新潟大学) 松岡洋子 (岩手大学) 安場淳 (中国帰国者支援・交流セン ター) 西口光一 (大阪大学) 宇佐美洋 (東京大学)

口頭発表 午前の部 [9:30 ~ 12:00 (各 30 分)]

	第 1 会場	第 2 会場	第 3 会場
	1 階 101 司会：川村よし子 (東京国際大学)	1 階 115 司会：西口光一 (大阪大学)	研究講義棟 2 階 227 司会：福田倫子 (文教大学)
9:30 ~ 10:00	① 学習者の発話を価値から捉えるか、意味から捉えるか—学習者が答える意義を持った問いかけという視座— 深江新太郎 (NPO 多文化共生プロジェクト)	⑤ ブラジルの日系人の子どもたちの二言語作文に関する一考察—産出量に着目して— 伊澤明香 (大阪大学大学院生)	⑨ 韓国人日本語学習者による漢字語の音韻類似性に基づいた処理方略 金志宣 (名古屋大学大学院生) 熊可欣 (同) 玉岡賀津雄 (名古屋大学)
10:10 ~ 10:40	② 表現活動における臨床性のある関係づくりの可能性 岡崎洋三 (大阪大学)	⑥ 多文化共生社会のビジネス日本語教育—目的別日本語教育におけるビジネス日本語の領域の再考からの一考— 栗飯原志宣 (ベトナム・日越大学)	⑩ 非漢字圏日本語学習者のワーキングメモリと日本語読解能力の相関—マレーシア人留学生を対象として— 吉川達 (佐賀大学)
10:50 ~ 11:20	③ 日本語教育における待遇コミュニケーション教育のあり方 平松友紀 (早稲田大学大学院生) 任ジェヒ (同) 蒲谷宏 (早稲田大学)	⑦ 初級日本語学習者が共創型対話を成立させるために教師は何ができるのか—東南アジア 5 か国と日本の高校生によるプロジェクトワークの実践から— 中尾有岐 (国際交流基金) 大船ちさと (同)	⑪ ルーブリックを用いた初中級日本語学習者のレポート活動—ルーブリック活用の可能性— 伊藤奈津美 (早稲田大学) 木野緑 (同), 山同丹々子 (同) 安田励子 (同), 山方純子 (同)
11:30 ~ 12:00	④ 中国人上級学習者の相手言語接触場面と第三者言語接触場面における発話の重なりについて 陳新 (文教大学大学院生)	⑧ 日能試・親密度で測る日本語非母語話者／子ども向け記事の語彙のやさしさ—NHK NEWS WEB EASY と朝日小学生新聞の比較— 近藤めぐみ (タイ・チュラーロンコーン大学)	⑫ DLA <読む>の構成概念妥当性の検証—テキストレベルの順位性をめぐって— 櫻井千穂 (同志社大学) 真嶋潤子 (大阪大学) 中島和子 (カナダ・トロント大学名誉教授) 野口裕之 (名古屋大学名誉教授)

口頭発表 午後の部 [13:30 ~ 15:20 (各 30 分)]

	第 1 会場	第 2 会場	第 3 会場
	1 階 101 司会：木下直子 (早稲田大学)	1 階 115 司会：ダニエル・ロング (首都大学東京)	研究講義棟 2 階 227 司会：小川誉子美 (横浜国立大学)
13:30 ~ 14:00	<p>⑬ 電車の日本語は外国人にとってわかりやすいか—電車アナウンス録音調査から—</p> <p>宿谷和子 (にほんごの会企業組合) 天坊千明 (同) 真殿直子 (同)</p>	<p>⑯ 介護の日本語教育における学びの場づくり—放射状の学びの効果—</p> <p>奥村恵子 (首都大学東京) 奥村匡子 (同) 加藤真実子 (同) 西郡仁朗 (同) 野村愛 (同)</p>	<p>⑰ 従属節の「丁寧形+から」の使用実態と、その教育再考</p> <p>前原かおる (東京大学) 増田真理子 (同) 河内彩香 (東京外国語大学) 猪股来未 (東京大学) 菊地康人 (同)</p>
14:10 ~ 14:40	<p>⑭ グローバル MOOCs における日本語オンライン講座の動画再生ログにみられる視聴実態</p> <p>戸田貴子 (早稲田大学) 大戸雄太郎 (早稲田大学大学院生)</p>	<p>⑰ 地域日本語教育におけるコーディネーター人材の「専門性」とその形成過程—国際交流協会等職員・日本語コーディネーターへのインタビュー分析から—</p> <p>御館久里恵 (鳥取大学) 神吉宇一 (武蔵野大学) 柳田直美 (一橋大学)</p>	
14:50 ~ 15:20	<p>⑮ 用法依存モデルに基づいた電子教材ソフトウェアの開発と開発成果報告—理論に基づいたテクノロジーの活用に向けて—</p> <p>久我瞳 (名古屋外国語大学) 立部文崇 (徳山大学)</p>	<p>⑱ 「満洲国」建国大学学生に於ける日本語観と学習観の側面—第1期生を中心に—</p> <p>酒井順一郎 (九州産業大学)</p>	

ポスター発表 第1部 [10:50 ~ 12:20 (90分)]

第1会場

研究講義棟 1階 113

①

教育実習を通じて実習生が認識する課題の変容—教育実習前後の比較から—

柳田直美 (一橋大学)
太田陽子 (同)

③

教師向け素材提供型サイトにおける課題遂行型授業実践への支援—「みんなの教材サイト」再構築での試み—

伊藤由希子 (国際交流基金)
上原由美子 (同)
長坂水晶 (同)

⑤

外国人児童生徒等の指導を行う教員・支援者の養成・研修—育成する教師像を中心に—

浜田麻里 (京都教育大学)
和泉元千春 (奈良教育大学)
川口直巳 (愛知教育大学)

②

「同僚性」の構築を可能にするものとは—ツールとしての学びの場を共有することを通して—

中村妙子 (フリーランス)

④

大学の英語教育と連携した日本語教師養成プログラムの開発—初級日本語教育における媒介語としての英語使用—

嵐洋子 (杏林大学)
阿部新 (東京外国語大学)
田川恭識 (日本大学)

⑥

日本語教員養成課程におけるアクティブラーニングの実践と学習者の学び—社会と結びついた問題意識の共有と当事者意識の高まり—

小口悠紀子 (首都大学東京)

第2会場

研究講義棟 1階 114

⑦

「JFにほんごeラーニングみなと」の多言語化から見えてきたこと—オンラインコースで学ぶ日本語学習者の分布と傾向—

和栗夏海 (国際交流基金)
廣利正代 (同)

⑨

予備教育における理工系専門科目語彙の音声韻律情報付き補助教材の開発—基礎数学—

伊達宏子 (東京外国語大学)
伊東克洋 (同)
渋谷博子 (同)
藤村知子 (同)

⑪

拡張現実を利用した教室と教室外をつなげる実践

米本和弘 (東京医科歯科大学)

⑧

経済連携協定 (EPA) に基づく外国人看護師候補者のための教材開発

加藤敬子 (金沢大学大学院生)

⑩

言語景観を活用したビデオ教材の制作における理論的枠組みと内容について

磯野英治 (名古屋商科大学)
西郡仁朗 (首都大学東京)

ポスター発表 第2部 [12:40 ~ 14:10 (90分)]

第1会場

研究講義棟 1階 113

⑫

日本国内の日本語を学ぶ高校生を対象にした「書くこと」のカリキュラム

河上加苗 (早稲田大学大学院生)

⑭

外国人児童生徒等教育の現場は、担当教員の資質・能力として、何を重視しているのか

中川祐治 (福島大学)
仲本康一郎 (山梨大学)

⑯

あん摩マッサージ指圧師国家試験に見られる語彙の分析—用いられる語彙の傾向と学習優先度の検討—

河住有希子 (日本工業大学)
藤田恵 (立教大学)
浅野有里 (日本国際教育支援協会)
北川幸子 (神田外語大学)

⑬

定住外国人とともに働く職場支援のための Can-do statements の開発—レジ場面における CDS の開発と試用—

大平幸 (立命館大学)
掛橋智佳子 (関西学院大学)
佐野真弓 (同)
森本郁代 (同)

⑮

子どもの言語教育に関する親の選択・実践からことばの育ちを捉える—日系カナダ人家族の事例から—

秋山幸 (早稲田大学大学院生)

第2会場

研究講義棟 1階 114

⑰

困り事を抱えた保護者と幼稚園・保育園とのやりとり—外国出身保護者支援に向けて—

薄井宏美 (山形大学)
内海由美子 (同)
澤恩嬉 (東北文教大学短期大学部)
角南北斗 (フリーランス)

⑲

日本人と外国人の日本語ビジネスコミュニケーションのための学習環境デザインのための考察と提案—対話による「相互理解」と「より良い関係性構築」を目指す—

小林北洋 (早稲田大学大学院生)

⑳

日本語学校の地域社会への貢献—小学校との交流プログラムを通して—

堂野崎梨紗 (新宿日本語学校)

⑱

実際の生活場面での利用を目指した簡易型日本語能力評価テストの開発

立部文崇 (徳山大学)
羽瀨由子 (同)

㉑

広島市ホームページにおける「やさしい日本語」書き換えについての考察—特定分野の語についての分類と書き換え—

宮前純子 (広島市立大学大学院生)

ポスター発表 第3部 [14:30 ~ 16:00 (90分)]

第1会場

研究講義棟 1階 113

②2

受講生へのアンケート結果からみた短期ジャパスタディプログラムの意義—アクティブラーニングを中心とした実践から—

野村琴菜 (お茶の水女子大学大学院生)

高橋桂子 (国際日本語普及協会)

難波房枝 (武蔵野大学)

矢野和歌子 (国際日本語普及協会)

堀井恵子 (武蔵野大学)

②4

語彙リスト生成システムの開発と日本語授業での活用

角南北斗 (フリーランス)

野村愛 (首都大学東京)

中川健司 (横浜国立大学)

齊藤真美 (豪州・国際交流基金)

布尾勝一郎 (佐賀大学)

橋本洋輔 (国際教養大学)

②6

学校教員の意識変容を促す日本語指導研修—参加者の期待とビリーフの調査から—

齋藤ひろみ (東京学芸大学)

菅原雅枝 (同)

②3

日本語オンライン・プレースメント・テストの開発

柳澤絵美 (明治大学)

小森和子 (同)

李在鎬 (早稲田大学)

長谷部陽一郎 (同志社大学)

②5

教師・学生に低負担な継続的接触場面のデザイン—日本人大学生と日本語学校留学生を無料通話アプリで結ぶ—

近藤優美子 (京都外国語大学)

②7

交流活動に対する教師間の評価—学習者のコミュニティ拡大を目的とした日韓共同理工学学部予備教育コースにおける試みを例に—

梶原彩子 (名古屋大学大学院生)

千葉月香 (同)

内山喜代成 (同)

安藤郁美 (同)

第2会場

研究講義棟 1階 114

②8

読解スキル習得過程の語り—プロセスと動機付けを焦点として—

藤井明子 (上智大学)

③0

2字漢字語の音韻類似性・音韻的距離に関する日韓中越データベースのオンライン検索エンジンの構築

于劭贇 (名古屋大学大学院生)

金志宣 (同)

玉岡賀津雄 (名古屋大学)

③2

漢字からの成り立ちを通してひらがな・カタカナを同時に教える教授法

三橋未幸 (新宿日本語学校)

須田ちえ子 (同)

②9

日本語学習者はどのような状況においてポジティブな感情を経験するのか—台湾人学習者のケーススタディー—

鈴木綾乃 (横浜市立大学)

岩下智彦 (早稲田大学)

伊藤奈津美 (同)

③1

キャリア支援につながる短期ビジネス日本語プログラムの実践と学習者の学び—体験を重視した実践の検証と学習者へのインタビュー調査を通して—

寅丸真澄 (早稲田大学)

作田奈苗 (東京外国語大学)

饗場淳子 (同)

賛助会員出展ブース

〔5月26日（土）12:00～17:00, 27日（日）8:45～15:00〕

会場：研究講義棟 1階 ガレリア（奥）

出展：公益社団法人日本語教育学会 賛助会員団体

本会の会員種別には賛助会員という会員種別があります。現在 39 団体（2018 年 2 月現在）が入会しており、全国の出版社、書店、日本語学校、企業、NPO 団体等、様々な分野で活躍されている団体です。賛助会員の皆様からは、日本語教育全体の発展と本会の運営の促進のために多大なご協力をいただいております。

本会では、昨年の秋季大会より「賛助会員出展ブース」を会場内に新設しています。春季大会での出展ブースは今回が初めてです。大会参加者との交流、参加者間のネットワーク作りの促進、日本語教育及び関連領域の情報提供、情報交流、広報等の一助になればと考えています。大会会場ならではのお話ができる可能性もあります。出展ブースでは各団体専用のブースを設け、各団体の紹介や最新情報の発信、書籍、教材のラインアップ展示等を行います。最新の書籍等が一同に手にとって見られる絶好の機会かと思いません。

参加者の皆様には是非足を運んでいただきますよう、ご案内申し上げます。

わかば・コンシェルジュ

〔5月26日（土）12:00～14:45, 27日（日）9:00～13:30〕

会場：研究講義棟 1階 ガレリア（大会受付前）

主催：公益社団法人日本語教育学会チャレンジ支援委員会

大会に参加してみて、わからないことや聞いてみたいことがありましたら、「わかば・コンシェルジュ」にお越しください。「どこでどんな発表をしていますか」「〇〇に興味があるんですが、どの発表を聞きに行ったらいいでしょうか。おすすめのコースを教えてください」など、大会プログラムに関する素朴な疑問や質問にお答えいたします。「わかばさんいらっしゃい」と連動しており、「わかばさんいらっしゃい」のチェックリストをコンプリートされた方に記念品を進呈いたします。大会へのご参加の記念にパネルを使った記念撮影のお手伝いもいたします。

また、他分野がご専門でこれから初めて日本語教育に関わるという方からのご質問やご相談にも可能な限り対応いたします。

2 日目（5 月 27 日）は、「ぶらさ da わかば」の申し込み受付も行います。黄色い帽子を着たスタッフがお待ちしておりますので、お気軽にお立ち寄りください。

わかばさんいらっしやい

[5月26日(土) 12:10 ~ 12:55]

会場：研究講義棟 1階 104

主催：公益社団法人日本語教育学会チャレンジ支援委員会

「わかばさん」とは、日本語教育を学ぶ学生・大学院生・日本語教育活動に関わり始めたばかりの方、教育経験は長くても研究活動を始めたばかりの方など、日本語教育学会ビギナーの方たちのことです。わかばさんが研究大会に参加するときは、「一人で大丈夫かな?」「どこへ行ったらいいんだろう?」と、少し不安だったり、ちょっと勇気が必要だったり…。学会のセンパイたちもみんなそんな経験をしてきました。

そんなわかばさんたちのために、「わかばさんいらっしやい」では、大会のしくみや聞きに行く発表の選び方、その他いろいろ、研究大会の楽しみ方をわかりやすくご説明します。もちろん、「こんな基本的なこと、今さら聞いてもいいのかな…」という隠れわかばさんも大歓迎。また、「自己紹介カード」を交わしながら、同じわかばさんどうしでつながる場も。仲間が増えれば、もっと大会が楽しくなるはずです。

「わかばさんいらっしやい」は食べ物・飲み物持参もOK! ランチを持って「わかばさんいらっしやい」の会場に是非いらっしやってください。

ぶらさ da わかば

[5月27日(日) 12:10 ~ 13:20]

会場：研究講義棟 1階 104・105

主催：公益社団法人日本語教育学会チャレンジ支援委員会

この学会に集うだけもが「わかば」マークをつけて日本語教育の実践や研究に関わり始めました。「わかば」の頃、日本語教育の世界で自分の先を歩いている「センパイ」と交流する機会を持てれば、ちょっとしたヒントをもらったり、悩みや疑問について相談したりできるかもしれません。それが、飛躍につながるきっかけになる可能性もあります。とは言え、自分からセンパイに話しかけたり、さらには、一対一で対話をする機会を持つたりすることは、なかなかむずかしいことではないでしょうか。

そんな「わかば」な人のための企画が、「ぶらさ da わかば」です。日本語教育の世界で皆さんの少し先を歩いているセンパイと、一対一で気楽に話してみませんか。研究や実践の話をしたり、キャリアの相談をしたり、夢を語り合ったり、センパイの経験談を聞いたり、自由な空間です。どうぞ奮ってご参加ください。当日の午前9時から大会受付に併設する「わかば・コンシェルジュ」で申込を受け付けます。参加するセンパイのプロフィールなど、詳細は学会ウェブサイトをご覧ください。

日本語教育研究実践ネットワーク (Net-J) 研究会紹介ブース

* 無料でご参加いただけます。

〔5月27日（日）12:10～13:20〕

会場：研究講義棟 1階 110・111

主催：公益社団法人日本語教育学会学会連携委員会 Net-J 部会

日本語教育研究・実践ネットワーク (Net-J) は、アカデミック・ジャパニーズグループ研究会、多文化共生社会における日本語教育研究会、日本語音声コミュニケーション学会、多文化共生社会における日本語教育研究会、ビジネス日本語研究会、看護と介護の日本語教育研究会、日本語教育学会（事務局）の7団体で組織されたネットワークです。本ブースでは、これらの研究会が、各分野の最新情報や、各研究会の取り組みについてご紹介します。また、当該分野の研究・実践に興味のある方の、個別の相談に乗ることも可能です。ぜひ、関連分野の研究・実践に取り組んでいる方、また関連分野に興味のある方のご来場をお待ちしています。

また、Net-Jでは、新たな加盟団体を随時募集しています。興味のある団体は、日本語教育学会事務局までご相談ください。

科研申請アドバイスセミナー 「日本語教育学における科研の今とこれから」

〔5月27日（日）12:10～12:50〕

会場：研究講義棟 1階 115

主催：公益社団法人日本語教育学会調査研究推進委員会

科学研究費助成事業として研究分野「日本語教育」で採択される研究を増やすことを目的とした企画です。「日本語教育学における科研の今とこれから」というテーマで、科研費採択経験者や審査委員経験者等から具体例を交えた情報を提供します。

科研費に採択されるためには、テーマの新規性や方法論の妥当性、申請書作成過程におけるルール遵守がきわめて重要です。この企画では、科研費申請のための注意事項、採択されるためのコツを解説し、参加者の理解を深めることを目指したいと思います。また、最近の日本語教育学の領域やテーマ、および、採択実績のある具体的なテーマを紹介します。これをもとに、参加者に研究テーマのブレインストーミングができる機会を提供します。

以上の説明の後、参加者からの質問を受け付ける時間を設け、参加者間での疑問点とそれへの解決例を共有します。

文部科学省委託事業：外国人児童生徒等教育を担う教員の養成・ 研修モデルプログラム開発事業—初年度事業報告—

〔5月27日（日）12:10～12:50〕

会場：研究講義棟 1階 101

主催：文部科学省委託「外国人児童生徒等教育を担う教員の
養成・研修モデルプログラム開発事業」調査研究部会

文部科学省委託「外国人児童生徒等教育を担う教員の養成・研修モデルプログラム開発事業」
として、2017年度は養成・研修の実態と求められる資質・能力に関する3つの調査を実施しま
した。①教員養成課程が認定されている大学・教職大学院，都道府県・市区町村教育委員会，国
際交流協会における外国人児童生徒等教育に関する養成・研修の実施状況（悉皆の質問紙調査），
②本教育領域に携わる教員・支援員の資質・能力に関する面接調査，③現職教員研修に関する面
接調査です。その結果，養成・研修の主体・対象，実施条件の多様性が浮き彫りとなりました。
この状況に対応するため，モチーフ型でコンパクトなプログラムをバリエーション豊かに用意す
ることにしました。目的・ニーズに応じてプログラムを選択し組み合わせることで，養成・研修
のカリキュラムを編成・実施できる仕組みです。2018年3月には，これらの成果を報告書とし
てまとめ，現在，本学会ホームページで公開しています。会場では，調査①から浮かびあがる養
成・研修の実態とモデルプログラムの構造，及びモデルプログラム案について紹介します。

至 飛田給駅



- ・ 下記の時間帯は、食堂が営業しています。26日(初日)は通常営業ですが、27日(2日目)は300食限定、事前チケット購入制(¥500-)です。(26日に販売いたします。) ぜひご利用ください。
26日11:30~13:30 / 27日11:30~13:30
- ・ お弁当等をご持参の方は、以下の会場・時間帯の飲食が可能です。ご利用の際は、ゴミの持ち帰りおよび教室の美化にご協力願います。
26日12:00~13:00 マルチメディアホール, 115, 226
27日12:00~13:30 マルチメディアホール, 115, 226, 227
- ・ 自動販売機は講義棟を出て左手にあります。
- ・ 一番近いコンビニエンスストアは正門の正面にあります。

会場案内

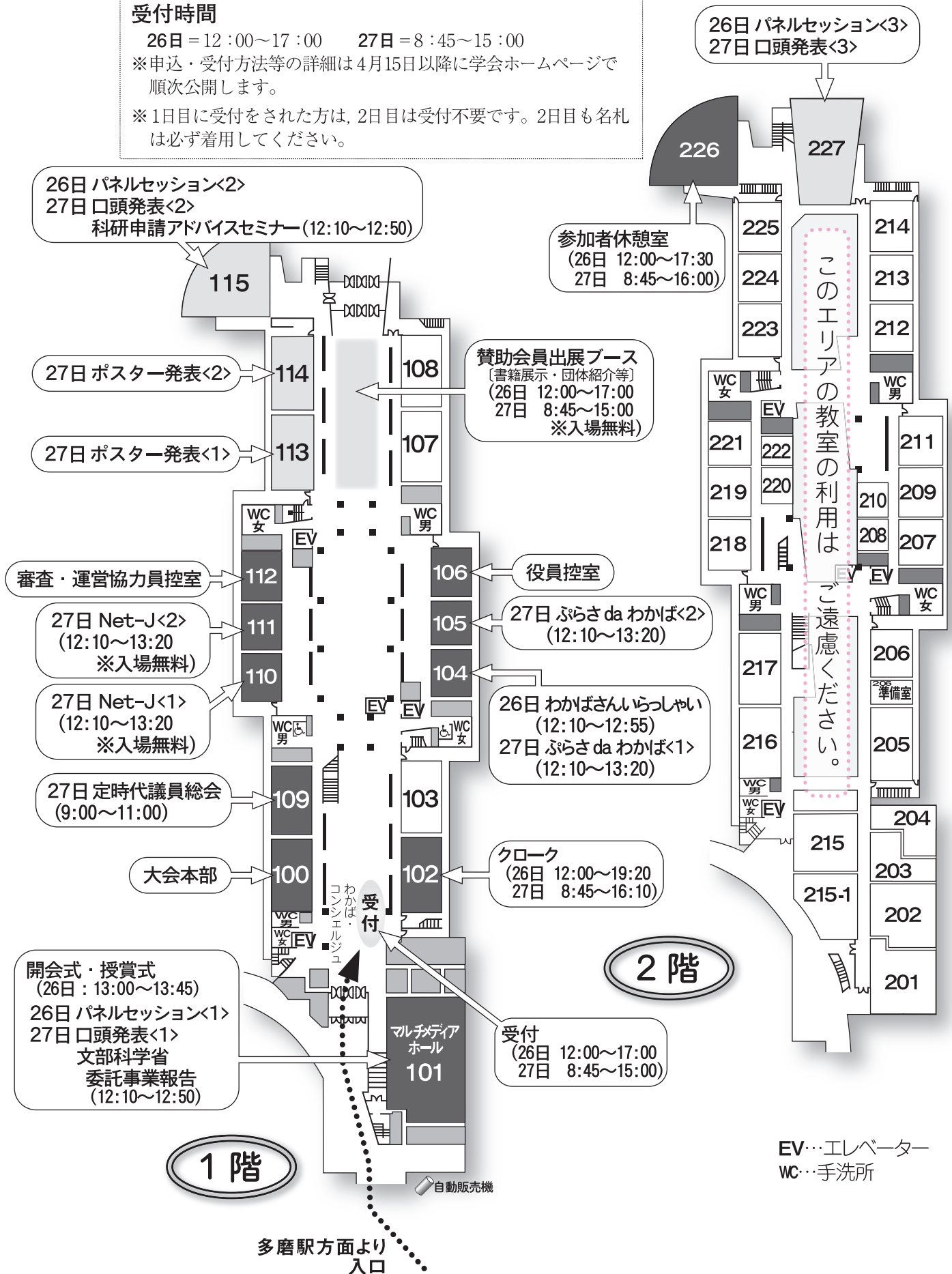
会場配置図 — 研究講義棟

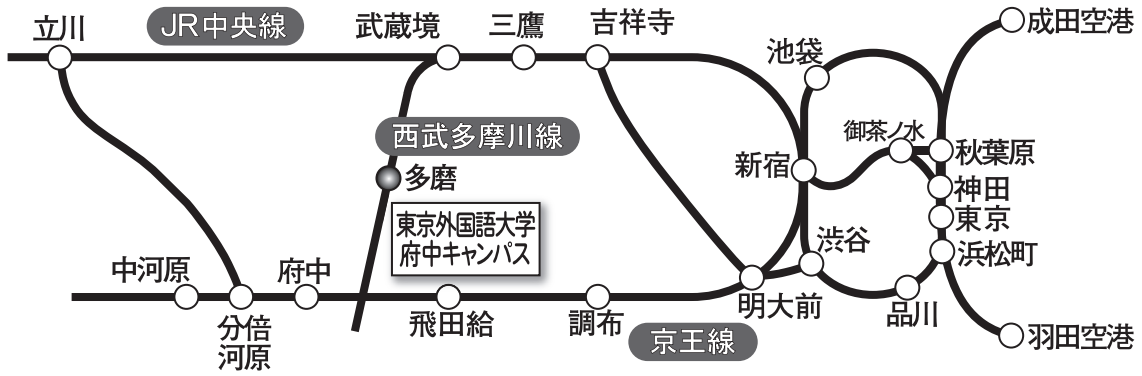
受付時間

26日 = 12:00~17:00 27日 = 8:45~15:00

※申込・受付方法等の詳細は4月15日以降に学会ホームページで順次公開します。

※1日目に受付をされた方は、2日目は受付不要です。2日目も名札は必ず着用してください。





所在地 東京都府中市朝日町 3-11-1

◆最寄駅・バス停留所

- ◇最寄駅：西武多摩川線「多磨」徒歩5分
- ◇バス停留所：「東京外国語大学前」すぐ

●成田空港からの経路

- 成田エクスプレス利用(所要時間：約2時間)
 - 成田空港《成田エクスプレス=80分》→新宿《JR中央線=36分》
 - 武蔵境《西武多摩川線=5分》→多磨
- 京成スカイライナー利用(所要時間：約2時間)
 - 成田空港《京成スカイライナー=36分》
 - 日暮里《JR山手線 新宿・渋谷方面=22分》
 - 新宿《JR中央線=36分》→武蔵境《西武多摩川線=5分》→多磨
- リムジンバス利用(所要時間：約2時間)
 - 成田空港《リムジンバス=120分》
 - 調布駅…北口バスターミナル12番乗り場
 - 《京王バス 調33多磨駅行=20分》→東京外国語大学前

●羽田空港(東京国際空港)からの経路

- 東京モレール利用(所要時間：約1時間30分)
 - 羽田空港《東京モレール=20分》→浜松町→《JR山手線 品川・渋谷方面=25分》
 - 新宿《JR中央線=36分》→武蔵境《西武多摩川線=5分》→多磨
- 京急空港線利用(所要時間：約1時間30分)
 - 羽田空港《京急空港線=36分》→品川→《JR山手線 渋谷・新宿方面=20分》
 - 新宿《JR中央線=36分》→武蔵境《西武多摩川線=5分》→多磨
- リムジンバス利用(所要時間：約1時間20分)
 - 羽田空港《リムジンバス=60分》→調布駅…北口バスターミナル12番乗り場
 - 《京王バス 調33多磨駅行=20分》→東京外国語大学前



- ◎所要時間は、おおよその目安として記載してあります。
- ◎詳細は、東京外国語大学公式ウェブサイト参照。
<http://www.tufs.ac.jp/access/>
- ◎自家用車でのご来場はご遠慮ください。

■ タクシー会社

京王タクシー	042-382-9966	十全タクシー	042-362-6521
三和交通	042-364-6000	美善交通	042-483-4019